

# サンセミヨン

登録番号：第10380号

登録年月日：平成14年7月10日

登録者：山梨県（山梨県甲府市丸の内一  
丁目6番1号）

育成者：雨宮 毅 小澤俊治 佐藤俊彦  
古屋次郎 望月 太 古屋 清  
平林利郎 三宅正則 安藤隆夫

齊藤典義 精進 剛 近藤真理

別所英男 小池浩一

来 歴：「笛吹」と「グロー・セミヨン」  
の交雑実生

育成地：山梨市江曾原（山梨県果樹試験  
場〔ブドウ育種指定試験地〕）

## 特 性

### ■栽培特性

「サンセミヨン」の樹勢は中程度であり、樹の広がり大きい。熟梢は黄褐色である。花芽の着生は良好で、1新梢あたり2花穂をつける。花は完全花(両性花)で花振るいは少ない。二倍体品種である。発芽期は、育成地の山梨県山梨市において4月上～中旬、開花期は、5月下旬～6月上旬である。成熟期は9月上旬であり、「甲州」や「甲斐ブラン」より早く、秋雨による影響を受けにくい。

### ■果実特性

果房は有岐円錐形で、約390gと醸造専用品種としては大きい、垣根栽培ではやや小房になる傾向が認められる。果粒は短楕円形で約3g程度とワイン用品種としてはやや大きめである。着粒密度は中からやや粗であり、ややばらけた房となる。果皮は完熟すると黄白色になる。糖度は20～21%であり、酸度は約0.7g/100ml前後である。冷涼な地域ではやや酸抜けが遅い。果実に渋み、香気は認められない。果皮の厚さは中程度であり、裂果の発生はほとんど認められない。また、「サンセミヨン」から作られたワインは、苦みがなく香りが華やかである。また、味のバランスが良く適度な酸、ボディもあるので辛口ワインとしても品質は良好である。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

うどんこ病、べと病等の発生は欧州系専用品種に比べて少ない。晚腐病にはやや弱いため、早めに傘かけを行うことが望ましい。棚栽培については、長梢・短梢せん定ともに可能であるが、短梢せん定において熟期がやや遅れる傾向が認められる。既存品種より節が弱く新梢が折れやすいので、誘引作業はある程度新梢が伸びてから行うことが望ましい。房づくりは特に必要としないが、果房重が大きくなりすぎる場合は副穂を除去する。摘房は中庸な新梢には1果房、強い新梢では2果房残すようにする。豊産性であるため棚栽培では10aあたり2.0トン以上の着果が可能であるが、酒質を低下させないために、1.8トン程度になるように収量調節を行うことが望ましい。なお、短梢せん定においては、第1芽の房持ちが悪い傾向にあるので3芽を残し、4芽目を犠牲芽せん定した方が良い。垣根栽培は棚栽培と比較して花穂数が少なく、花振るいにより着粒もやや少ない傾向がある。そのため、適正な樹勢管理をするとともに、結果母枝の充実を図るため、摘心等により樹冠内部の受光態勢を良好にする。また、花穂数や着粒数が少ない場合は、1新梢に2果房を残す。

### ■地域適応性

東北以南のブドウ栽培地域での栽培は可能であるが、北海道や本州の高標高地では果実が熟さず、耐寒性がやや劣るため栽培は困難である。

(手塚裕裕)